



SEMA FLASH 09

深 リ ム の 帝 王 学 。

WORK Mister M1&L1 GNOSIS GR205

Text : 中三川大地 Daichi Nakamigawa
Photo : 小林邦寿 Kunihisa Kobayashi

セ マの現場に限らずともオーバーフェンダーのアプローチは、もはや世界中で定番といえるほど増殖した。とりわけ日本から発信されるブランドが多いのはとても興味深い。

同じく日本で、その潮流を足もとから支えてきたのがワークだ。いかに迫力のオーバーフェンダーを手に入れたとしても、それにドンピシャはまるタイヤ&ホイールがなければあまりにも不格好になる。そのトレンドを真摯に受け止め、長年培ったマルチピースホイールのノウハウを活かして、豊富なサイズラインアップ&オーダーメイド

体制で応えてきた国産ホイールメーカーだ。

その筆頭がマイスターシリーズ。発端は90年代のレーシングホイールという長寿モデルながら、新鮮さは少しも失われず、むしろその絶妙なるクラシカルな雰囲気が、盛り上がるネオヒストリック系には特に似合うとあって人気を盛り返している。セマでは新作たる3ピースのL1シリーズが公開され、最新のレクサスRC Fに加えて、DTMを彷彿とさせるようなCLKレーシングに装着された。70年代のフェアレディZに装着されたのは定番メッシュたるM1シリーズである。

さらにワークは、グノシスの新作GR205を公開したり、プレミアム感あふれるVS-XXをあらためて持ってきたりと他にも提案があった。過去を大切に守りながら、しかし革新的な挑戦を忘れることがない。だからこそワークは世界各国多種多様な世界を受け止めるのである。📍



オーバーフェンダーのクルマはマイスターシリーズの装着率が高い。それだけ定番として認知されている証か。6本スポークで3ピース構造の新作L1シリーズやメッシュのM1シリーズなど、マイスターといっても表情は多彩だ。